

歴史を歩く 一二五〇年の

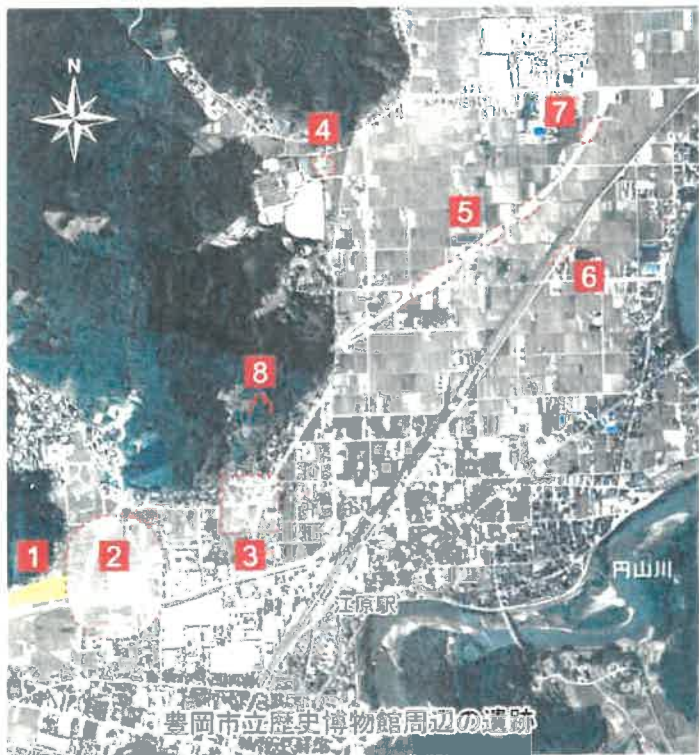
国府・国分寺とは

それは、今から1250年も昔。
天平13年(741)、聖武天皇は諸国に国分寺と国分尼寺の建立を命じました。その頃、国内では地震や飢饉などの災害が相次いだため、仏教の力で社会や政治の不安を鎮めようと考えたのです。

また、国府とは現在の県庁にあたる役所のこと。但馬国分寺跡に隣接する祢布ヶ森遺跡が、延暦23年(804)に造られた但馬国府であることが、近年の調査から明らかになりました。

豊岡市立歴史博物館は、但馬国分寺跡や但馬国府跡の近くに建っています。つまり、ここは古代但馬の中心地。先人の残してくれた貴重な遺産を守り、次代の人たちに受け継いでいくために、活動しています。

- | | | |
|-------------|-----------------|----------|
| 1 豊岡市立歴史博物館 | 2 但馬国府跡(祢布ヶ森遺跡) | 3 但馬国分寺跡 |
| 4 但馬国分尼寺跡 | 5 深田遺跡 | 6 川岸遺跡 |
| 7 カナゲ田遺跡 | 8 国分寺城跡 | |



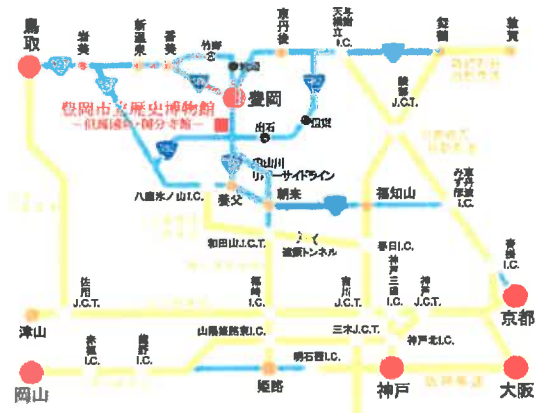
豊岡市立歴史博物館周辺の遺跡

ご利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日 水曜日(祝日の場合は開館し、翌日が休館) 年末年始(12月28日～1月4日)
- 入館料 大人 500円(400円) / 高校生 200円(150円) 小中学生 150円(100円) / ()は20名以上 *65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方は半額。 *兵庫県内の小中学生は、ココロカードの提示で無料。

交通のご案内

- JR 山陰本線「江原」駅下車、西へ徒歩15分
- 自動車 北近畿豊岡自動車道「八鹿氷ノ山インター」下車、北へ約12km。無料駐車場あり。



豊岡市立歴史博物館
但馬国府・国分寺館

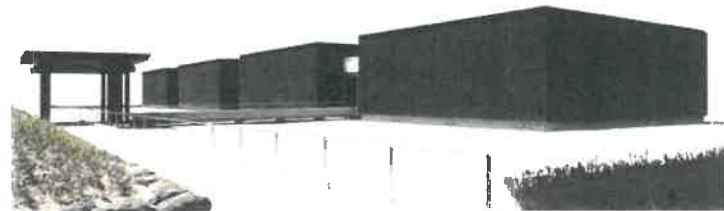
〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町祢布808
TEL 0796-42-6111 FAX 0796-42-6112
URL <http://www3.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/>
E-mail kokubunjikan@city.toyooka.lg.jp

豊岡市立歴史博物館

—但馬国府・国分寺館—

見て、触れて、感じる“本物の歴史”

さあ、歴史の扉を開けてみよう!



天平の文化、但馬に花ひらく

常設展示室 I

1 とよおか歴史物語

多くの自然と文化を擁する豊岡市。市内には8,000か所を超える遺跡が残り、出土資料からは、大陸をはじめ山陰や畿内など各地の文化の薫りを感じることができます。

ここでは、豊岡市内で出土した代表的な考古資料を時代ごとに展示しています。先人の知恵や工夫を感じ、豊岡の悠久の歴史に思いを馳せてください。



市内最古の遺物 ナイフ形石器
(大内谷遺跡/旧石器時代)



ガラス製の管玉
(妙楽寺墳墓/弥生時代)



【兵庫県指定文化財】
棺に備えつけられた石枕
(中郷深谷遺跡/古墳時代)

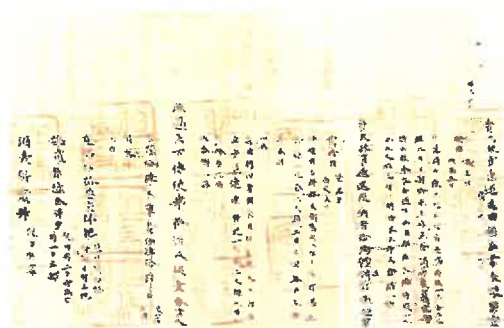


葬送の儀式で使われた須恵器
(赤坂1号墳/古墳時代)

2 但馬国府はどこに

但馬国府の所在地は、但馬古代史の長年の謎とされてきました。『日本後紀』延暦23年(804)に、「但馬国治を氣多郡高田郷に遷す」と書かれていることから、国府は移転したことが分かり、所在地問題をより複雑にしているのです。

ここでは、最新の発掘調査の成果から、但馬国府の所在地や国府の実態を紹介していきます。



『但馬国正税帳』(複製)



但馬国府の存在を裏付けた木簡

常設展示室 II

3 但馬国分寺を掘る

天平13年(741)、聖武天皇の詔で建設が始まった但馬国分寺。出土した木簡から、国分寺の造営過程や寺院経営の実態が明らかになるなど、その成果は全国的に注目されています。数多くの出土資料から、但馬国分寺の壮大な姿を思い浮かべてください。



【豊岡市指定文化財】
但馬国分寺木簡



【豊岡市指定文化財】
風鏡



「僧寺」と記された土器



線軸線彩の耳皿

企画展示室

4 企画展示

年間を通して、さまざまな特別展や企画展を開催しています。歴史や考古学に関する内容を中心に新しい企画を展開中です。「こんな企画展をしてほしい」というご要望がありましたらお気軽にお知らせください。



総合学習室

5 歴史発見広場

6,000冊を超える歴史関係の書籍をはじめ、本物の土器や石器に自由に触れることができます。古代衣装試着、土器や勾玉づくり、昔のおもちゃ遊びなどの体験も予約なしで楽しめます。また、さまざまなテーマで「ミニ企画展」も開催。気軽に歴史に親しんでみてはいかがでしょうか。





豊岡市立歴史博物館 ニューズ

—但馬国府・国分寺館—

2018.10 第54号

豊岡市立歴史博物館 〒669-5305 兵庫県豊岡市日笠町赤布 008
TEL 0796-42-6111 fax 0796-42-5112
—但馬国府・国分寺館— <http://www3.city.toyooka.lg.jp/kokurumijinhm/>



第45回企画展 錦秋をまとう —歌舞伎衣裳にみる秋—

江戸時代に娯楽として発展した歌舞伎。その人気は全国に広がっており、但馬地方は農民らが演じる農村歌舞伎がさまざまな地域でした。山間部の多くの村では、さなぼり（田植え後の休み）や秋祭りの際に、若者らが神社や御堂で歌舞伎を披露していました。ふだん目にするこのないきらびやかな衣裳は、見る人を驚かせたことでしょう。

農村歌舞伎の多くは戦後しばらくして途絶えてしまいましたが、衣裳や小道具のほか、背景の襷絵や床本などが残されています。

今回の展示では、但馬に残されている歌舞伎衣裳の中から、秋を感じさせるものを選びುತ್ತ紹介します。舞台衣裳ならではの華やかさと季節感をご堪能ください。

■会期 平成30年10月5日(金)～12月27日(木)

「豊岡の宝もの」を守り、まちづくりに活かそう

■ 基本テーマ

“楽しみ”が未来へ伝える ふるさと豊岡の宝もの

■ 基本方針

- 方針1 発見・学びを楽しむ**
「豊岡の宝もの」の理解を深め、新たに発見することを楽しみましょう。
- 方針2 楽しみながら、ともに育む**
「豊岡の宝もの」の価値や魅力を皆で育み、「豊岡の宝もの」に磨きをかけましょう。
- 方針3 活かす楽しみを高め、広げる**
「豊岡の宝もの」をまちづくりや観光などへと活かし、その魅力を広く伝えましょう。

■ 取り組みの進め方

- “楽しみ”づくりに「地域コミュニティ組織」を活かす
「地域コミュニティ組織」を基本単位とし、「豊岡の宝もの」を活かしたまちづくりに取り組みます。
- “楽しみ”をタテとヨコに広げる
次世代（タテ）に引き継ぐ取り組みと、地域内外（ヨコ）への広がりをつくる取り組みを進めます。
- “楽しみ”を通じて、さまざまな担い手が連携・協力する
市民や行政などが「豊岡の宝もの」を“楽しむ”ための役割を認識し、互いに連携・協力して取り組みを進めます。



「豊岡の宝もの」を紡ぐ物語”を活かし、楽しむ取り組みを支える

■ 市が実施する施策の方針



■ 7つの重点施策

(今後5年間に重点的・優先的に取り組む施策)

「ふるさと教育」との連携	■	史跡整備の継続	■
「豊岡の宝もの」を活かした取り組み	■	町並みの保存・整備	■
祭りや伝統芸能の価値の共有と継承支援	■	歴史博物館の充実	■
		ジオパーク活動など関連機関との連携	■

「豊岡の宝もの」を守り、活かすために

豊岡市歴史文化基本構想【概要版】

豊岡市歴史文化基本構想とは？

市内にある歴史文化遺産は、担い手不足などさまざまな課題を抱えています。豊岡市歴史文化基本構想は、世界に誇る豊岡市の歴史文化遺産を守り、活かすためのマスタープランです。

歴史文化遺産とは？

皆さんの暮らしのなかで大切に守り、受け継がれてきた歴史・文化・自然遺産を「歴史文化遺産」とよびます。

“豊岡市の歴史文化”って何？！

豊岡市には、海・山・川など豊かな自然の恵みが数多く残されています。これらの自然の恵みは、私たちの営みを支えているだけでなく、歴史にも大きな影響を及ぼしてきました。

例えば、日本海をめぐる各地との交流は、アメノヒボコ神話の源となりました。見晴らしの良い山の上には多くの城が築かれ、交通や情報の拠点として機能しました。自然とともに暮らししてきた人々は、自然を信仰の対象とし、多くの祭礼・民俗行事を受け継いできました。

つまり、豊岡市の歴史文化の特徴は、

豊かな“自然の恵み”のもとに繰り広げられる“人々の営み”が育む歴史文化といえます。



将来に残していきたい歴史文化の7つのテーマ …「豊岡の宝もの」を紡ぐ物語



市の歴史文化を知る上で欠かせない重要な歴史文化遺産や、まちづくりに活かしたい歴史文化遺産が「豊岡の宝もの」です。「豊岡の宝もの」を7つの物語に紡ぎ、歴史文化遺産を活かしたまちづくりを進めます。

「豊岡の宝もの」を紡ぐ物語

■物語1 アメノヒボコの伝承

豊岡市内の各地には、「旧馬場拓の相神」とされるアメノヒボコまつわる神話が多く残されています。出石神社や中興神社など、アメノヒボコやその子孫を祭神とする神社が多くみられ、榊まわしなどの祭事も受け継がれています。

■物語2 日本海の恵みと人々

日本海の恵みの代表は、豊富で新鮮な魚介類や、竹野浜や氣比の浜、はさかり岩などの観光地です。かつて北前船の寄港地として栄えた竹野地域には、強い風雪に耐える檜杉板を住宅の外壁に利用した町並みが、今も受け継がれています。

■物語3 城崎温泉

城崎の魅力は、泉質の良さと温泉街にあります。街を囲む山々や大谷川、木造旅館の佇まいなどが調和した温泉気は、城崎温泉特有のもの。巨大地震による被害を受けても、その温泉気を守りながら復興を遂げ、温泉街としての魅力はさらに高まっています。

■物語4 円山川と暮らし

円山川は、豊かな自然環境のもとで多くの生き物が暮らす楽園です。また、かつては舟運が盛んで、経済や文化の発展に貢献しました。しかし、円山川は時に水害によって私たちを苦しめるため、今なお川の平穏を祈る祭りが各地で受け継がれています。

■物語5 城と町並み

市内には城跡が150以上あり、人やモノ・情報が集まるネットワークの拠点でもありました。江戸時代には、市内には出石藩・豊岡藩という2つの藩が置かれ、城下町が形成されました。それぞれの町並みは、特色ある風土となり、さらに発展を続けています。

■物語6 神鍋高原をめぐる文化

神鍋山の周りには、7つの火山が知られていて、その噴岩は、滝などの美しい地形を作り出しました。また、大正時代からスキー場の開発が進み、人気を得ています。神鍋高原は、その自然や文化を活かし、四季を通じたリゾート地として発展を続けています。

■物語7 京街道を行き交う文物

豊岡・出石から但東を経て京都を結ぶ京街道は、江戸時代以降、殿様や庶民が行き交い賑わっていました。多くの通る人や石仏は、当時の繁栄を偲ばせています。山が多く平地が少ない但東地域の繁栄を支えたのは、京街道を通じた人々の交流でした。

「豊岡の宝もの」

自然資源

自然の恵みによる資源

- ・日本海
- ・豊岡盆地
- ・円山川
- ・出石川



- ・竹野浜
- ・はさかり岩
- ・宇日流紋岩の流理
- ・畑上の大トキノキ
- ・絹巻神社の暖地性原生林



- ・温泉
- ・大谷川
- ・来日岳
- ・円島湯地



- ・円山川
- ・コウノトリ
- ・オオサンショウウオ
- ・玄武洞
- ・汽水城
- ・ヨシ原
- ・円山川河科林



- ・平地を
見下ろす山々
- ・円山川
- ・出石川
- ・玄武岩
- ・陶石



- ・神鍋山と
神鍋高原
- ・神鍋溶岩流
- ・湧水
- ・アベサンショウウオ
- ・徳山



- ・一宮神社の
ケヤキの森
- ・郷土館
- ・東里ヶ岳



文化資源

自然とともにある生活文化の資源

- ・瀬戸の岩戸
- ・榊まわし
- ・農業



- ・漁業
- ・海食文化
- ・焼杉板の町並み
- ・浜漁船曳



- ・温泉街の町並み
- ・温泉付織伝承
- ・湯祈禱
- ・古式入浴作法
- ・文芸創作
- ・袖嶋だんじり祭り
- ・交わら細工



- ・紀伊細工
- ・豊岡地
- ・榊まつり
- ・川瀬祭り



- ・出石伝統的建造物群保存地区
- ・出石皿そば
- ・大名行列槍振り
- ・山石焼



- ・旧大岡寺塔婆
- ・ヤチャ踊
- ・スキー
- ・旧馬車
- ・ワサビ栽培
- ・養蚕
- ・林業



- ・笹ばやし
- ・太刀振り
- ・大生部兵主神社の例大祭
- ・但馬ちりめん
- ・農村誌録伎
- ・安国寺のドウダツツツジ



歴史資源

人々の営みが作り出した資源

- ・出石神社
- ・御出石神社
- ・鷹貴神社
- ・中興神社
- ・森尾古墳
- ・持旗遺跡
- ・入佐山3号墳
- ・鉄製品



- ・ヨゴレハバ古墳群
- ・風谷古墳
- ・北前船
- ・鷹野神社
- ・任意歴史資料館



- ・温泉街の町並み
- ・温泉寺
- ・四所神社
- ・講島舟



- ・久久比神社
- ・中谷良家
- ・二見谷古墳群
- ・国府と国分寺
- ・木崩
- ・舟運



- ・山名氏城跡
- ・滝ヶ城跡
- ・亀ヶ城跡
- ・円通寺
- ・出石城跡
- ・豊岡陣屋跡
- ・豊岡震災復興建築群
- ・鉄道遺産



- ・岩倉古墳群
- ・鉱山跡
- ・大岡寺
- ・隠国寺



- ・日出神社
- ・粟尾古墳
- ・木造薬師如来坐像
- ・久畑開跡

